

刊夕日六月五



定額 一紙五銭 月金五拾銭 郵費五銭
廣告料五銭 十二字第一行金五拾銭
日曜 祭日 日休 日休 日休
發行所 常盤町 常盤町 常盤町
電話 六三〇 電話 六三〇
印刷所 常盤町 印刷所 印刷所

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (三)

岡本少将閣下御前講演

斯くて日全く暮れて暗となるや丁度奉天の停車場でありませう一列になつて居る十数個の電燈を見ました其處で書簡標定し置きました方向が丁度右から七ツか八番目でありましたので非常に好都合と獨り喜んで居りましたが、夜の二時頃起き出でて見ますと火が全部消へて居るのに痛く落膽致しました、如何とも仕方がありませんが夫れでも幸甚間磁石で標定して置いたので仕合せでありました、御蔭で距離も短かくありましたが大なる誤りなく方向維持が出来ました。

三月七日午前四時步兵第六聯隊(第一大隊欠)及工兵小隊は干洪屯西方向約千米の池の東端に集合致しました聯隊長は命令を下し大越少佐の指揮する第二大隊(第八中隊欠)工兵第二中隊の一分隊及北川少佐の指揮する第三大隊(第十一、第十二中隊欠)工兵一小隊(一分隊欠)を供列して第一線とし第二大隊の左翼をして左翼隊の攻撃目標たる干洪屯西南端獨立樹に向はしめ別に第十一中隊を牽制部隊

として廣正面に散開して第七師團の構築したる散兵壕(李官堡の東北方向約百米の沮洳の池東端)に據りて射撃を以て敵を牽制し第一線の村落内に突入するを見れば直ちに村落に進入すべきを命じ第八第十二中隊を聯隊の豫備として第一線の後方約百米突にありて前進せしめられました、是れより先き第一線兩大隊より出された將校斥候は當時既に敵前約四百米に達して居りました。

我が第二大隊は第五第六中隊を第一線とし第七中隊及工兵分隊を豫備とし第一線諸隊は最初併立縦隊に後横隊として兩大隊共に密に連絡して靜肅に前進を開始しました、聯隊長は第八第十二中隊を提げ第一線の中央後百米突に在りて之に續行しました、時に東方僅かに曙光を認むるも天尚ほ暗く午前五時三十分頃第一線は敵前約五六百米に達するや前方に二三發の銃聲を聞き、之は敵の斥候を驅逐して我前進を掩護の爲派遣しました將校斥候が敵に衝突したものでありま

東京市本郷駒込追分町 (茶代不用) 上野驛ヨリ(自動車約五分 電車約十五分)

駒込達館

電話(小石川)三一六五番
一金一圓泊八十錢(食附但シ二食)

旭硝子株式會社製品

板ガラス

赤菱印

製造 硝子食器
販賣 菓子壘
其他 各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支工場 仙臺市榮町 電話五九七番

江戸前料理

御家庭... 御膳二人以上

松 一人前 圓五品附
竹 同 一圓廿錢六品附
梅 同 一圓五十錢七品附

ゼヒ一度御試食下さい
仕出し 錦水
電四五四番

花柳病専門

木村科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

女給さん數名募集

ランチルーム 一の井

希望ノ御方ハ平町十五丁目
一の井へハガキデ申込下サイ

炭石

炭石 ストコ

よい品を安く賣る店
電話三七七番

阿部石炭商店
電話三七七番

美味 滋養

松本の 洋生菓子

ヤトモツマ

番四一二電目丁四平

堂々

斯界の群を抜く
最高級車プソモス號
今般増車致しました
何卒御用命は

電話三九五番へ
セリザワタクシ

在郷軍人最高の榮譽

御紋章入銀杯

御沙汰書と共に下賜さる

重なる光榮に山崎分會長感激

石城在郷軍人分會長退役砲兵少尉山崎清三氏は先に軍人勲諭五十周年記念祝典に際し軍事功勞者として荒木陸相より表彰状並びに銀牌、掛額を贈られたが更に今回

至誠一貫多年帝國在郷軍人會務に盡す功績顯著なる廉に依りとして長くも御紋章入の銀杯と御沙汰書を賜はることとなり近く聯隊區司令部に於いて晴れの傳達式が行はれる此の事は在郷軍人として最高の名譽を擔ふもので此の光榮に浴せるは第二師團管内の福島、宮城、新潟各縣を通じて山崎氏と宮城縣三本木分會長新澤中尉のたゞ二氏だけである山崎氏は感激して語る

私は知らなかつたのですが友人に知らされました去る五日の官報を見ると此の旨が記載されてあり始めて恐懼した次第です、今迄別段の微功も表しませんでしたに此の光榮に浴し汗顔の至りに堪えませんが此上に一層忠誠を勵み聖恩にお酬へして榮譽を恥かしめ考へです

生命線確保の

武勳輝く

凱旋兵歡迎會

けふ晴れの奉告祭

平町凱旋兵の歸還奉告祭は本日午前十時半より縣社子鐵倉神社々頭に於いて厳かに開始され先づ左記凱旋軍人

田町高木武雄 久保町大竹榮一 紺屋町片山八郎 堂の前猪方四郎 立町佐藤武司 南町小泉弘 八幡小路竹内正一

の諸氏着席するを待つて修抜あり山部神官敬々し

化したる勇士を思へば萬感迫りて痛惜の念新に禁し難きものありと雖も今や諸君並犠牲將士の偉勳により滿蒙及中支の事態も漸次平靜ならんとしここに東洋平和の基礎確立を見んとするに至る國家のため洵に慶賀に堪へざるなり殊に特筆すべき幸

平商五年が

兵營生活

團體的訓練を

振作の爲めに

平商業學校五年生四十名は來月一日より二泊四日間の豫定にて學校教練振作の目的を以て團體的生活涵養の爲め駒場教官及び宮澤教諭引卒の下に仙臺工兵第二大隊に於て兵營生活を行ふと

種痘執行

内郷村にて

石城郡内郷村では天然痘豫防の爲め左記日割にて全村の種痘を執行すると

- (九日)宮瑞芳寺(十日)村會議事堂(十一日)第一校
- (十二日)白水分校(十三日)高坂校第二校(十四日)第三校

故障防止

機械化

踏切警報

平保線區にては管内踏切廿四ヶ所中の大半に踏切看守

箱崎上等兵の遺骨

平町に一泊して

郷里玉川に向ふ

既報蒙古方面遼南の激戦に於いて名譽の戦死を遂げた石城郡玉川村出身の歩兵上等兵箱崎光氏遺骨は明七日午後六時二十二分警越線平着列車にて到着平町に一泊の上八日郷里に向ふのである

炭礦地帯の

社會施設視察

内郷村から九州へ

石城郡内郷村にては炭礦地としての社會施設を構せん爲め村長野木龜之助氏外村議十名が本物の代表的炭礦地帯たる福岡縣三池炭礦附近各町村の施設機關を實地視察せんと来る十日出發の筈

濱通りに

唯一つ

銀行法實施と

磐東銀行

新銀行法の實施を目前に控へ縣では同法適用並に合併問題に關し悩んでゐるが既

募一二勇士遺族の

一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます

二、右弔慰金は平驛前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ

三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

主唱 阿部政右衛門

後援 常磐毎日新聞社

寄附者芳名 第廿八回分

- 材木町 平田兵八 同 中津一郎
- 同 齊藤周造 同 同秀幸
- 同 松石芳松 同 仲間町 砂森定男
- 同 島辰次郎 同 同 横山さく
- 同 同 同 同 同 久

米價が

俄然強氣に

躍進的騰貴に

穀検査所驚く

平穀物検査所管内の産米相場は去月以來四等建値一俵で八圓二三十錢を前後し居据りの型もあつたが今回政府の米買換策発表と共に俄然米價は強氣をふくみ三日には八圓三十五錢と飛び翌四日には八圓四十錢の高値を示し更に本日に至つては四五十錢高の八圓八十錢に騰りつゝあり同支所でも其の躍進的高調子に驚いて居る

正副級長 襟章

平商校で

平商業學校にては昨日午後一時より職員會を開いた結果本年度より各級正副級長に對し左の如き襟章を附ける事に決定本日より實施した

正級長(金色櫻花章)
副級長(銀色櫻花章)

赤字消ゆ

去月の平驛

博覽會の開催を中心となし各種大會相次いだ四月中に於ける平驛の乗降客を聞くに乗客は三十八萬四千八百六十九人、降客は三十七萬九千四百四十五人を算し平常の乗降三十萬内外に比較すると三割近くの増加を見て居り是の收入二萬九千九百七十四圓八十錢に達し赤字續出の同驛も二割方の増収であるとなつた貨物の發送數は三千六十一噸で前月より二百七十噸の減を示したが到着は一萬二千九百三十三噸で百五十噸の増加を見た

強奪事件

明日公判開廷

石城郡湯本町大字湯本字辰ノ口旅人宿白石屋居住朝鮮人具道亭事山田三郎(三)及び崔卒得事田中政吉(三)の兩名が去る三月十二日豊岡村大字豊岡字神町二十八番地建具職伊藤新次(三)所有の二十圓在中の墓口を強奪逃走せる事件は昨日午後一時より平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事立會の下に公判開廷事實の訊問を

なし一先づ刑務所に拘留したが是が公判は明日午前九時より開廷すると

佑賢學舎 雄辯大會

平町城山磐城佑賢學舎にては来る二十七日正午より春季第三回學生雄辯大會を開催すると

高久郷軍協議

石城郡高久村在郷軍人分會では十二日午後一時より同村小學校に於いて幹部會を召集役員並に本年度の事業等に就いて協議を行ふ筈

二七大學生

實は札付の不良兒

酌婦を連れて博覽會見物

昨五日午後五時頃産業博覽會第三會場にて一大學生の婦人連れを平署員が怪しみ取調ると右は岩手縣下關伊郡遠野町片町石橋猛(七)假名で本年三月不良の餘り肩書地縣立遠野中學校二學年を勝手に退學し郷里を逃走各地で窃盜を働き五日夜平町に入り三丁目裏飲食店第三新橋事佐々木ヲル方で豪

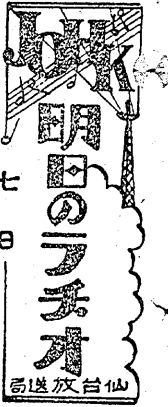
平第一校惜敗す

昨日磐中のリレー競技

昨報磐城中學校運動會に於ける第三十五回郡下各小學校對校八百リレー決勝は午後三時半華々しく行はれたが左の成績にて必勝を期した平第一小學校は僅の差で惜くも敗れた

一着 好問 (二分十二秒)

平町字仲間町六二黒澤三郎



報濼氣天

今夜は南西の風曇り明日は北西の風晴れ

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 後九、三〇 奉天より
- 後九、四〇 全國ニュース
- 後七、三〇 講演「戦争と防弾チョッキ」東北帝國大學總長理學博士本多光太郎
- 後八、〇〇 俳諧「安曇節」
- 信州大町連中
- 後八、一〇 俳諧「彦山節」
- 福岡縣田川郡彦山村有志
- 後八、二〇 放送無聲劇

明日の部

- 「忠臣藏六段目」歌舞伎座より中繼
- 後九、三〇 奉天より
- 後九、四〇 全國ニュース
- 氣象通報 番組豫告
- 前九、一〇 料理献立「ヘリンゴドグリエー」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭講座「母に感謝せよ」明星學園長走井米吉
- 後一〇、〇五 映畫物語「フ

少年刑務所を脱走

道々窃盜を働いて

平町に入込み捕る

石城郡小名濱町字竹町五九生れ住所不定吉田三郎(七)は去月三日千葉縣松戸町の少年刑務所を脱走して以來水戸高萩助川等各地にて窃盜十數件を働き昨夜平驛前藤田屋旅館に投宿した處を平署員に取押られた尙同人

昨日の磐城中學校第三十五回運動會に於ける競技の新記録は左記二種目であると

新記録

走高跳と棒高跳

昨日の磐城中學校第三十五回運動會に於ける競技の新記録は左記二種目であると

- △棒高跳 (五ノ一)
- (校内記録二米七〇)
- 二米九〇 白土丑之輔 (五ノ二)

平職業紹介所報告

求人部
△料理見習 十八歳 尋卒 月五圓位(平町某)
△求職部
△製材工 二十四才 高一 修 給料面談(平町某)

一米六五 鈴木忠

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第四十三席〕

眞庭念流達人櫻井五助

貸金を取りに

村上主殿の若黨七郎次は主人の強慾に呆れたが生命とて、貸金を取りに行かずばなるまいと中の口まで来るとそれへ来たは女中のおかめ

七『本町の越後屋まで貸金を取りに行く、今日中に返す約束だから是非受取つて来い、金が出来れば出来るまで待つてゐると旦那は云ひなさる事に寄ると一年許りおまへの顔を見ることも出来ぬかも知れない』

七『よし、どうせ飯田屋の前を通るんだ、買つて来てやらう』

おかめから鳥目を受取つて邸を出て越後屋十兵衛の許に來た、織元とて機臺の十臺はあり織子の三十人も居るが、今日は盆の十三日の事として工場もひつそりとしてゐる

七『御免なさいまし旦那はお在でございますか、村上の許から参りました』



それを聞いて店へ出て來た主人の十兵衛
十『イヤ七郎次さん、能く來なすつたナ』
七『あんまり能くも來ません、今日は鬼でございます』

じてその湯を服むと療りませ又小判の音を聞くが何よりの樂み然う云ふ人でございませから、金を取る日は忘れませんや
十『然うだね、まア此方へ來て下さい、今日は織子は墓参りに行つて不在だし、それに家内も子供を伴れて寺へ行き、若い者は勘定を取りに行つて、これもまだ歸つて來ません、一人で退屈して居た、一杯御馳走しよう他から貰つた泡盛がある、暑氣拂ひに飲んでお出で』
七『御馳走さまでございませぬ』

ない、安心の爲に金を渡して置く、交せ金だ能く見て檢べておくれ
七『へ成程小判もあり、一歩銀もあり二歩銀もありませぬ』
十『五十兩あるかね』
七『へエ確にございませぬ』
財布に入れて真中を紐でく、し内懐中へ入れた、そこへ主人が酒を持つて來て
十『さア飲むが宜い』
七『有難うございませぬ、わたくしは一合上戸で二合飲むと睡くなりましてね』
十『それは宜い酒だナ、お前さんなどは出世前だ、大酒をしては叶ないよ』
七『左様でございます、あゝ泡盛は旨い、甘い味の中にピンとした處がございませぬ』

七『有難うございませぬ、左様なら』
七郎次は越後屋を出た、もう出た時は日も暮れて家には盆提灯を吊るし芋殻を焚いて先祖の來るを迎へてゐる、どういふ譯ですか此日には火を焚きます、冥土の道は暗いからそれを照らす爲ですか、人々は門口へ出て念佛や題目を唱へ
○『さア御先祖様がお出なさる、そこをもう少し開けておくれ、ハイ、入らつしやいませ』
などとお婆さんは佛が見えるやうな事を云つてゐる七郎次は飯田屋といふ小間物屋に來て女中のおかめに頼まれた元結と油を買ひ、それを持つて邸を指して歸るところが越後屋で馳走になつた酒の酔が一時に出て身体がフラ／＼する、二三度轉びました。

十『ウンさうだつたね、忙しい爲に忘れてゐた、村上さんへ五十公返さなければならぬ』
七『それをお貰ひ申しに來ました、何にしろわたくしの主人は御承知の通り金が好きでございます、感胃をひいた時などは小判を煎す、銘酒は肴が要りませぬ』
十『徳用だナ』
七『時にお金はどういふ事になりますか、わたくしを酔はして置いて、今お前に渡したではないかななどと云はれると困ります』
十『そんな人、悪い事はし來て下さい』

十『それは宜かつた、定めし今日は忙しであらう』
七『邸のことでございませぬから盆が來ようが年暮が押し來るとも忙しない事はございませぬ、ドレ戻りませう、旦那は帳面を睨んでもう金を持つて來るか待つて居りませう』
十『然うかの、どうぞ村上さんへ宜しく云つて下さい』
七『忘れてゐて済みませぬ、茲に持つて居ました、へエお渡し申します』
十『又暇があつたら遊びに來て下さい』

耳鼻咽喉科専門
大和田醫院
平町南一七〇
電話一七〇

父喜正儀 本日葬送の際は遠路に不拘御會葬被下殊に御鄭重なる御香奠を辱ふし難有奉存候早速拜趨御厚禮可申上處混雜中に付乍略儀以紙上不取敢御禮申上度如斯に御座候
五月六日
柳 山崎 今之介

本場新茶 入荷致しました
◎一斤 二、〇〇一、六〇〇

香味本庄の本場銘茶を召上りませ
電三九六番
大勝園

高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五一三番

貴金屬
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電氣
ランプ特約店
店計時橋高
路小槌搔町平

吉田眼科病院
内科小兒科 耳鼻咽喉科
外科花柳病科 レントゲン科
平町南一七〇 電話六八八番